宇部市総合計画審議会（第５回）議事録

日　時　平成２１年4月３０日（木）１３：３０～１５：３０
場　所　宇部市役所第２･３･４委員会室

出席者
（委　員）
倉重龍昌　光井一彦　横屋幸児　田辺龍夫　有田信二郎
中野リヱ子　藤重清美　園　絹枝　三浦房紀　西村伸子
千葉泰久　脇　和也　北野洋子　三原節子

（事務局）
総合政策部長　芥川貴久爾　同部次長　小川　徹
新総合計画策定室長　廣中昭久　同室長補佐　河村真治　同室主査　篠原　功
総合政策課主任　福永俊明　同　課　員　小林郁美
（コンサルタント：ランドブレイン株式会社）
岩切　翔
（宇部市新総合計画策定本部専門部会正副部会長）
総務部次長　阿部和生　都市開発部次長　内田英明
健康福祉部次長　岡田利三　健康福祉部次長　滝川洋子
教育次長　杉本繁雄　教育次長　佐貫和巳
経済部次長　部坂博美　都市開発部次長　佐々木俊寿

欠席者
（委　員）
玉重彰彦　上村昭義　中野朋子　黒髙滿義　篠田佳代子
松﨑益徳

一般傍聴者
２人

１　会長あいさつ

（事務局）　本日は、御多忙のところ、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただ今から、宇部市総合計画審議会の第５回会議を始めます。

本日も、市の専門部会の正副部会長が会議を傍聴させていただくことを御了承願いたいと思います。

それでは、初めに、光井会長からごあいさつをお願いします。

（会　長）　連休前の気ぜわしい時期にお集まりいただきありがとうございます。今日は五月晴れでいい天気です。連休中もいい天候が続きそうです。連休中、新川市祭り

もありますし、定額給付金も出つつありますので、宇部市のためにぜひ率先してお金を使っていただき、活性化に御協力いただきたいと思います。

さて、世の中なかなか収まりがつかないようで、不況の話が出ていましたら、今度は新型インフルエンザの話が出てきました。世界中大騒ぎで、日々心安まるときがない近頃です。

政府の第二次補正予算案が衆議院の審議を経て、今参議院で審議されているところですが、真水で15兆円規模ということで、商工会議所としても心待ちにしている一方で､地方にどこまで影響が出てくるのかという不安なところもあります。一日も早く経済が立ち直ればよいと思います。

総合計画審議会も回を重ねて第５回目となりました。皆様の真剣な審議の結果がまとめられてお手元に資料として届けられていると思います。私も一読しまして、なかなかよくまとまってきたと思います。後はこれを答申という形にまとめていく作業に入るわけです。

前回も言いましたが、各分科会から、何か目玉となるとなるものを１つ、２つ、これだけはというものを出していただいて、答申案にまとめていきたいと思いますので、本日もよろしくお願いします。

（事 務 局）　ありがとうございました。では早速議事に入りたいと思います。まず、本日は委員の半数以上の御出席をいただいておりますので、本会議は成立していることを報告します。会議の議長は、総合計画審議会条例第４条第１項の規定により、会長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

２　議　事

（会　　長）　それでは、議事に入ります。本日の会議も公開とし、議事録も後日、市のホームページ上で公開することにしたいと思います。

本日は、前回の会議に引き続き、「まちづくりの方向性に関する論点について」議論したいと思います。それでは、事務局から説明をお願いします。

(1)　まちづくりの方向性に関する論点について

（事 務 局）　前回の会議では、これからのまちづくりの方向性を左右するようなポイントやキーワードについて議論いただきました。時間上の制約で各委員から十分な意見がいただけないという御指摘があり、今回の会議に先立ち各委員にあらかじめ文書で意見を提出していただき、その意見を資料１のとおりまとめました。

本日は、この資料と前回（第４回）会議資料３「まちづくりへのキーワード」の二つの資料を題材に、議論いただければと思います。

それでは、キーワード順に、議長に進めていただきますようお願いします。

（会　　長）　それでは、資料１「まちづくりへの論点に対する各委員の所見」における最初の論点「環境」について議論したいと思います。まず、事務局から何か説明はありますか。

（事 務 局）　まず、「環境」について、論点としては３点挙げておりましたが、論点２「自治体が環境産業の発展にどのような関与ができるか。」については、皆様の意見を事務局が参考意見として承り、論点の１と３について、改めて議論いただきたいと思います。

論点１「市街地へのマイカーの乗入規制と駐車場の整備とは、どちらを優先させるか。」では意見が分かれております。これは、「環境への取組」という面を重視するか、「中心市街地の活性化」という面を重視するかによって、意見が分かれたものと理解しています。

また、論点３「市民レベルでの環境への取組としては、どのようなものが有効か。」では、市民総ぐるみで取り組める身近なものを、意見として挙げていただきました。

事務局からは以上です。

（会　　長）　それでは、「環境」についての論点１～３について意見のある人はどうぞ。

資料にあるように、「市街地へのマイカー乗入規制を優先」という意見が４人、「市街地への駐車場の整備を優先」という意見が９人になっており、この結果からは、宇部では、中心街を始めまちの活性化のためには車の乗入れを増やすという意見が多いようです。

中心街への車の乗入れについては、中心市街地活性化協議会においても、いろいろと議論していますが、やはり、宇部市という地方都市の現状を考えると、車の乗入れがまだ優先されるのかなあというところです。

また、政府も力を入れているエコカーも、今後増えてくると思われますので、車の公害については、今まで言われていたほどは進まず、むしろ減少していくことも考えられると思います。

いずれにしても、総合計画審議会としては、かなり先を読んだ場合はどうかということが求められていると思いますので、その点を踏まえ意見をお願いします。

（委　　員）　２、３年前に商工会議所が工学部の鵤（いかるが）心治先生を中心に市街地の駐車場調査を行った際に、市街地における駐車場の面積的な占有率は相当なもので、言い換えれば駐車場だらけという状況でした。

にもかかわらず、駐車場が無いという市民の認識があるのは、月極駐車場がほとんどで、自由に安価に止められる駐車場がないためです。ですから、駐車場はあっても、既に実質的には乗入規制が行われているというのが私の認識です。

車の乗入れを歓迎するのか環境を重視するのかという以前に、使いやすいまちづくりを考えた場合は、公的な力で、ばらばらにたくさんある駐車場を集約し、

利用者が使いやすい環境をまず用意すべきと考えます。ちょうど、リバースモーゲージのような感覚でできないかと考えています。

そして、もし環境のために規制をかけるのであれば市街地に近づくほど駐車場料金を高くするシステムを考えればよいと思います。

今すぐ車が減るという状況は考えにくいので、当面は乗入れ歓迎でいきますが、10年、20年先をみれば、車と環境という問題は当然出てきます。そのときに両様の対応ができる形にしておきたい。したがって、私の意見はＣです。

（委　　員）　環境面を部分的に考えると、考え方を間違えるような気がします。

もちろん、車が吐き出す炭酸ガスを下げることを考えなければいけません。しかし、乗入規制をすることで遠くに買物に行くようになると、かえって車炭酸ガスを排出するようになるので、総合的に考える必要があります。

地方に行くと、どうしても一人が車を乗り回すようなことが多くなります。地球規模で、エネルギーをいかに使わないように環境を守っていくかと考えていくと、交通が便利にならないといけません。例えば、東京は電車や地下鉄のような公共の乗物が発達しているので個人が車に乗る必要がありません。そのような方向性を視野には入れなければいけないと思います。しかし、ここにそのようなインフラをすべて整備することはエネルギーを使うことで、かえって地球を汚すことになります。環境問題は、部分的なところだけで捉えてはならないと思います。

環境面をきちんと考えるという意識を持ちながら、悩みながらやっていく必要があります。環境面で車はだめだということではなく、ハイブリッドカーとか、将来的には電気自動車とか、いかに快適にエネルギーを使わなくて済むまちを少しずつ造っていくということが大事だと思います。

そこで、私は、まず市街地に駐車場を整備して、車がたくさん来ることを想定して、そこを合理化して、動きやすいまちを造っていくというように考えたらどうかと思います。

（委　　員）　私の意見は「その他」なのですが、市街地で駐車場にあまり苦労していないという意識がありまして、駐車場がそんなに必要なのだろうかと思います。

ほかの論点にも関わるところなのですが、宇部の真ん中をどんどん強くするといっても、既に厚南や東部のようなサテライト的なところがいろいろとありますので、それをうまく活用するほうがよいと思います。

効率面からすると一箇所集中のほうがよいのでしょうが、人は効率だけではないと思います。広がって住む人たちが、全体的にある程度快適に生きていける環境をつくったらいいのではないかと思います。

それよりも、お金をかけるべきは教育ではないでしょうか。

（会　　長）　12年という長期的な論理が必要だと思います。私が感じているのは、もう10年経ったら宇部市全体がますます高齢化するということです。

今、県警では、年を取って車を運転するとどうしても事故の確率が高くなると

いう観点から、運転免許証返納の制度を進めています。いずれ宇部市も平均年齢が上がってきて、車が無くてどうやって生活するかということも、この審議会では十分考えて答申する必要があると思います。

現時点ではいろいろな論議があると思いますが、おそらく10年後の車社会は変わってきているでしょうし、運転者の年齢構成も変わってきているでしょう。まちが運転できなくなった人たちを受け入れて、その人たちに利便性をどう出すのか、そのあたりが論点だと思います。おそらく公共交通をこれからどんどん整備するというところはこれから増えないのではないかと思います。

環境という観点だけでなく、まちづくりという観点からも、担当分科会では、掘り下げて検討してください。

次の論点２「自治体が環境産業の発展にどのような関与ができるか。」について、日本全体としてどうするかという問題もありますし、宇部ではどうするかということもあります。この資料にもいろいろな意見が出ていますが、意見を出している人以外にも意見のある人はいらっしゃいませんか。

また、論点３「市民レベルでの環境への取組としては、どのようなものが有効か。」を併せてでも、差し支えありません。

（委　　員）　環境都市としてのまちづくりについて、総合計画の基本構想は将来の指針となります。車の買い替えの時にはハイブリッドカーにしたり、家の建て替えの時には太陽光発電を設置するとなると費用もかかります。宇部もグローバル500賞受賞都市として、環境面で全国に売り出すのであれば、論点２のＨに書きましたが、財政状況も苦しいと思いますが、許される範囲の行政の支援策を盛り込んでもらいたいと思います。

（委　　員）　自治体がどうすべきか論点２のＮに書きました。宇部市はグローバル500賞も受賞し、環境都市としてブランド化できる力を持っているとは思いますが、市民レベルでみると、なかなか実態が見えないところがあります。

例えば、公用車がすべてハイブリッドカーになっている、市役所の屋上に全面太陽光パネルがあるなど、本気にやっていることが打ち出せれば、環境都市がもっと活きるのではないかと思います。

（会　　長）　資料にも書いているのですが、学校教育で子供たちにマニュアルで省エネを教育する、マニュアルを作って評価するような市条例を作るべきではないかと思います。市民のごみ分別への協力をみますと、省エネについて各家庭でできる協力があると思います。

例えば、テレビのスイッチを入れるとすぐ画面が出るのは、その間ずっと電源を通しているからです。電源を切ると画像が出るまでにしばらくかかりますが、省エネになります。そういうことを徹底してマニュアル作りをして家庭で守るという条例を作ると、省エネに取り組む姿勢が出てくると思います。

子供が言うのが一番効くと思います。私も孫が「じいちゃん無駄だから電気を

消そうよ。」というのを聞くとはっとします。子供は学校で教育を受けたから言うのでしょう。

こういったことに全家庭が取り組むとかなり大きい省エネになると思います。専門的な機関にマニュアルを作らせてそれを実行する、このような取組はもう、ほかの都市でやっているところはたくさんあります。

先ほど言われたように、取り組んでいる姿勢が見えないというのが、市民の率直な気持ちではないかと思います。

もう既に取り組んでいると思いますが、まず、市役所が率先して省エネに取り組むと、市民も市が取り組んでいるので私たちもやらなければならないという気になります。その際にマニュアルがあるとやりやすいと思います。

女性の委員の皆様は、意見はありませんか。実際に家庭のマニュアルを作るのは女性が協力しないと進まないと思います。最近は男性がごみを出す世帯も増えていますが、基本は主婦だと思いますので。

（委　　員）　会長が言われたように、今は小さなころから教育がとても盛んだと思います。小学校や幼稚園では、ごみを捨てるのをやめようとマイ箸、マイスプーンを始めとした取組が行われています。我が家でも、買物に行くと言うと「お母さん、バックは。」と尋ねられますし、電気をつけっぱなしにしていると子供が消します。

Ｆにあるように、家庭の電気をどれだけ減らしたかというような調査用紙を、子供が学校からもらってきます。１日どのくらい使用して、どのくらい消したという意識すら親にはないのですが、親よりも子供のほうがきちんと付けてくれるように感じています。

買物に行っても、主婦の皆様はほとんどマイバックを持ってこられていて、ごみも減っているのだということを実感しています。

（会　　長）　このたびの政府の補正予算の中に、太陽発電の補助金がかなり盛り込まれているようです。これが施行されますと、各家庭でも、新築を始め取り組むところが増えてくると思います。

ここに工学部長もおられますが、工学的観点から省エネの効果について専門家のお墨付きがあると、信用されて効果が上がるのではないでしょうか。このように、うまく仕掛けをすれば、成果も上がってくると思います。これも今からの論点に入れていただきたいと思います。

また、厚東川の水力を電気に換えるのは、技術的計算まではできませんが、風力よりは見込みがあるのではないかと思います。

下関の日本海側にはかなりの数の風力発電がありますが、宇部に入ると何もありません。宇部市は省エネを本当に本気でやっているのかと情けない気になります。いろいろなことを全部するのは、費用面の問題もあり、難しいと思いますが、何か目玉をつくり、宇部市の象徴的なものはこれだというものをやると、成果が上がると思います。

それでは、次に「コンパクトシティ」に移りたいと思います。これも今までの

話と関連があると思います。では、事務局から説明をお願いします。

（事 務 局）　「コンパクトシティ」について、論点としては２点ありますが、論点２「車社会である現状で、公共交通による移動サービスは、どの程度提供することが必要か。」については、皆様の意見を事務局が参考意見として承り、論点１「本市は「コンパクトシティ」を目指すべきか。目指す場合において、どのような規制を実施すべきか。また、中山間地域の小規模で高齢化が顕著な集落（小規模高齢化集落）へは、どのように対応すべきか。」について、改めて議論いただければと思います。

論点１も意見が分かれております。ただし、本来の「コンパクトシティ」を本市にそのまま当てはめることについては障害が多いという点は、「目指すべき」「目指すべきでない」という双方の意見に共通しているのではないかと思います。

（会　　長）　では、「コンパクトシティ」について、意見のある人はどうぞ。

コンパクトシティの取扱は難しいと思います。

商工会議所会頭としては、先日、西岐波の商店街が、独自に商品券に２割のプレミアを付けて販売したところ、あっという間に売り切れたと聞き、大変驚きました。これは、旧西岐波村以来の地元商店街が、ひとつにまとまって「元気をだそう」と実施した催しのようです。

宇部市は、旧宇部村以外に、西岐波・東岐波・厚南・厚東・二俣瀬・小野といった旧村があり、楠町とも合併しました。そのような地域では、コンパクトシティの考えで中心街に全部を集めたらどうなるのか、非常に疑問に感じ、難しいと思っています。なかなか意見がまとまらないのも、原因はその辺りにあるような気がします。

周南市の場合は、合併はしてきていますが、中心街はひとつしかありません。コンパクトにまとまっており、そこに集中的に集めればいいわけです。

宇部市の場合の難しさは　宇部市の歴史が物語っている感じがします。資料１の意見をみても、「作るべき」「必要ない」という意見が半々ぐらいに分かれており、これをまとめるのは非常に難しいと思いました。

皆様は、最初から賛否だけの意見ではなく、こういう理由からこのようにしたらどうかという意見をいただきたいと思います。

（委　　員）　コンパクトシティにできればそのほうがよいと思うのですが、現行法令上可能でしょうか。宇部市は、人口10万人以上の都市で市街化区域と市街化調整区域の線引きがないという全国的にも珍しい都市です。山陽自動車道以南は市街化区域、以北は調整区域にできたらと個人的には考えているのですが。

例えば、郊外に大規模な団地ができた場合、学校や上下水道などの都市基盤の整備が必要になります。一方、市街地においては、現在の都市整備の老朽化に伴う維持補修が必要です。新規整備と維持補修の両方が必要ということで、管理経費がどんどん増えてくることになります。

資料１にも、郊外への大型店舗の出店を規制すべきだという意見がありますが、現行法令上、そのような規制は可能なのでしょうか。専門部会の都市計画関係者に助言をお願いします。

（専門部会）　御指摘のとおり、宇部市は線引きをしておりません。全国的にも、人口10万人以上の都市としては珍しい状況です。

線引きが行われたのが昭和45年頃ですが、当時は、農業政策上、農業で自立できるか、農業以外の第三次産業等で生活できるかで分岐点になったと思われます。

今の時点で線引きをして、経済活動の規制を都市計画法上行うのは困難と考えています。

では、宇部市ではどうするかということで、山陽自動車道以南には、特定用途制限地域の指定を行い、面積1,500㎡以上の新店舗の立地を規制しました。それは、店舗ができるとその周辺に団地ができる、団地ができると、そこにインフラの整備が求められ、道路も造らなければならないし、水道も引くことになるからです。

現状では、都市計画法上、それ以上の規制をすることは、経済的側面から難しいと考えます。

（委　　員）　将来変わるかもしれませんが、私の今時点での考えを、論点１のＮでユビキタス社会という言葉も使って述べています。コンパクトシティという考え方は分からないことはないですが、先ほど述べたように、効率だけで考えてはいけないのではないかと思っています。

現実問題として、宇部市の中のいろいろな所に住んでいる人達を、極論すれば、コンパクトシティの名の下に一箇所に集中させる、例えば、市民の９割を集中させる、既に郊外に自宅がある人は中心部のマンションに移ってくださいというような話に、市民が乗ってくるのかと疑問に思います。

効率だけで人を集めることを考えるよりは、小さいとはいえ、いろいろな資源を持っているわけですから、それを十分に活用する方向に持っていくほうがよいのではないでしょうか。インフラなどの問題は確かにあるかもしれませんが、いかにその問題を解決するかを考えたほうがよいというのが、今時点の考えです。

（会　　長）　宇部市には工業地帯があり、漁業もできるし、農業もあるという具合に、産業資源的に恵まれています。恵まれているので、いろいろな中心ができ、よそと比べて、分散しやすい状況になります。

漁業しかなければ漁村になるし、工業しかなければ工業都市になるように、産業がひとつしかなければ、集中せざるを得ず、中心地をつくりやすいのかもしれませんが、そういう意味では　宇部市は、まとまりにくいし、やりにくいと思います。

コンパクトシティを考える際に、もうひとつ考えなくてはいけないのは、学生のまちという視点です。

工学部、医学部、フロンティア大学、高専と、これだけの高等教育機関がある

ところは少ないと思います。

約7,000人の学生が住んでいるわけですから、コンパクトとはいわないまでも、学生の住みやすいまちにしないと、魅力ある学徒都市になりません。そういう点も、まちづくりを考えるときに、考慮すべきと思います。

（委　　員）　コンパクトシティは、私が属する生活環境分科会の主要テーマの一つで、大変頭を悩ませているところです。

基本的には２つの視点からコンパクトシティが必要と考えます。

１点目は、山口県全体が、中核都市が見果てぬ夢になっている間に、いつの間にか人口減少が全国でも最たるものとなっている現状です。

２点目は、会長の指摘のように、高齢化へどうやって対応するかという点です。

理論的な立場では、コンパクトシティ化しないと、住みやすいまち、生活環境にはなりがたいと思います。

反面、分散化という現実も受け入れなければならないと思います。郊外店に「ロックシティ」と「ロックタウン」があるのと同じです。「ロックシティ」を市街地とすると、「ロックタウン」として厚南、西岐波、東岐波には、立派な生活圏ができています。分科会でも東岐波在住の委員は、ここに住んでいて何の不自由もない、市街地に出る必要はないと言われます。そちらでは、高齢者が歩いて暮らせるまち、コンパクトタウンという感覚です。

全国的には青森市や富山市が国の指定を受けましたが、そのようなコンパクトシティができる県でもないし、市でもないと思います。宇部市独特のコンパクトシティ化という考えに立たないと、せっかく構想を掲げても、厚南、西岐波、東岐波の皆様はじめ市民の皆様にそっぽをむかれ、総合計画そのものが死んでしまう気がします。

分科会では、今お話した方向で議論をしつつあります。この方向性の是非を皆様にたたいていただきたいと思います。

（委　　員）　今までの計画は、基本的には、人口増の時代に合った考え方でできていると思います。しかし、これから、いやおうなく人口減少社会に入っていく中、コンパクトシティは重要なテーマだと考えています。

しかし、宇部市を含め分散型な山口県にあって、市街地を再び形成するのにどれだけのエネルギーを費やさなければならないかということや、特に、宇部市が合併を重ねて一つの大きなまちになってきたことを考えると、住民を含めて、もう少しいろいろな意見を聞いてから決めるべきだと思います。

それで、これから12年間の計画において一つの方向性が見出せるかどうか不安なところから、現計画では時期尚早という意見を論点１のＥに書いています。

（委　　員）　学生の住みやすいまちづくりについて言えば、宇部市は人口17、18万人の都市としては、学生数が非常に多いのは間違いないと思います。

ただし、こう言っては何ですが、学生はよく勉強をします。それで、実験など

で自由時間が少ないこともあって、余り昼間はまちに出て行かないので、まちの活性化には、にぎわいという点では、余り寄与していないと思います。

工学部では、山口県の出身者は24、25％なのですが、地元への就職率は4、5％で、ほとんど地元に就職していない状況です。そこを何とかならないものかと考えています。せっかく高度な勉強をしても、よそに行ってしまうので、人材をいかにして地元に残すかということを考えています。

そこで、山口大学全体で３年前から地元企業との交流会を始めていますが、工学部においても、製造業等を中心に、就職ということも含めて交流をしていこうと、今準備をしています。

それから、学生はアルバイトをする場合、夜のアルバイトが多くのですが、夜のアルバイトが多いと、明くる日、眠くて学校に出てこないことがあります。

夜間のサービス業以外にも、学生がそれぞれ学んでいる専門性を活かせるようなアルバイト・パート情報があれば、学生にとっても、地元にとってもよいのではないかと思います。今後、そのようなところを探していかなければならないと思っています。

以上のようなことも含めたまちづくりを考えていただければ、非常にありがたいと思います。

コンパクトシティについて言えば、典型的なコンパクトシティ化が困難だということは、先ほど言われたとおりだと思います。

高齢化が進んでくると自分では車が運転できなくなるわけですが、そうなっても、精神的にも、物質的にもある程度豊かな生活ができるまちであってほしいと思います。今いるところを強制的にまちの真ん中に移すのは非常に無理があり、住み慣れたところで快適に暮らしていける仕組みを作っていく必要があると思います。

分散型ではあっても、市役所や病院のような都市機能の重要なものは集中したほうが効率がよいので、そこへは公共交通機関で容易にアクセスできるようにして、普通の生活は、今住んでいるところを中心に豊かな生活ができるようなまちづくりがよいのではないかと思います。

先ほど言われたように、ＩＴ化が進んでいまして、総務省も、高齢者や障害者の使いやすさをどうするかということを盛んに言っています。

もうすぐ地デジが始まります。今、パソコンでは、高齢者や障害者は情報弱者と言われていますが、地デジでは、テレビを使って４つのボタンでいろいろなことができる仕組みが今後できるのではないかと思います。そうすると、分散型でもいろいろなことができるのではないかと思います。

そのようなことを考えたまちづくりをすることが、宇部市の歴史を考えたまちづくりではないかと思います。

（委　　員）　お伺いしたいのですが、学生の地元への就職率が4、5％というのは、働く場がないからですか、それとも、働く場があっても宇部にいたくないからですか。

（委　　員）　厳密に調べたわけではないのですが、今のところ、両方あるように思います。どうしても、学生は、テレビにコマーシャルを出しているような企業に就職したがります。

しかし、調べてみると、世界シェアや国内シェアが何10％もあるような企業が宇部を始め、県内にもかなりあるのです。そのことを学生は知りませんし、教員もほとんど知りません。そういうことを知ってもらう必要があると思います。そうすれば、地元への就職率も上がってくると思います。

（会　　長）　コンパクトシティというか、宇部市の中心街として、官庁関係があり、銀行があり、いわゆるオフィス街があって、井筒屋のように買物もできるところもある中心的な役割を持つところは必要だと思います。

先ほど言われたように、宇部市独自のやり方が宇部市には似合っているように思います。歴史が示しているように、一気に大合同して、中心に何が何でも持ってくるというのは、市民の賛同が得られにくいと思います。

宇部中央のパチンコ店跡地が、いよいよ売れたようです。購入者は、往時の銀天街のにぎわいを再現したいという情熱を持って購入されたと聞いています。ただ、一緒にやりましょうという熱意のある賛同者が、今のところ少ないようです。

情熱のある賛同者が何人か集まって、あの辺りに新しい店ができれば、又にぎわいが出てくるように思いますが、今は、民間で私財を投げ打ってやろうという意欲のある人がほとんどいないというのが現状です。そのような現状が今の宇部市の一番の悩みではないかと思います。

それでは、次の論点２「車社会である現状で、公共交通による移動サービスは、どの程度提供することが必要か。」については、意見はだいたい出ているように思います。

経費の費用対効果の面で問題もたくさんありますが、まったく移動手段を持たない人もいるので、市としてどのように取り組んでいくかということだと思います。これについて意見をお願いしたいと思います。

ここにおられる委員はだいたい便利なところに住んでおられて、余り不便を感じられない人が多いのかもしれませんが、周辺部の農村に住んでいる人には切実な問題だと思います。

特に今から10年も経つと高齢化がますます進み、車にも乗れない人がたくさん出てくると思います。公共交通をどうするかということは、市にとっても頭の痛い問題だと思います。ある程度まとめておかないと、後々いろいろな異論が出てくるところだと思います。

私自身、資料１を読んでも、どうまとめたらいいのか結論を出すのか非常に難しいところもあります。この問題を担当する生活環境部会の意見はいかがですか。

（委　　員）　ここは本当に重要なことは分かってはいるのですが、それでは、どんな手段があるかというと、議論が空転しているとまでは言いませんが、的確なものが出てきていません。

中山間地域とどうつなぐかという点では、既に小野にコミュニティバスが走っていますが、できれば、公的なものでなく、タクシーなりバスなり、ビジネスの世界で運用できる仕組みが理想的であるという議論は出たのですが、今のところ、これだという方策が出てきていません。

以前、有識者提言をいただいた藻谷浩介氏が、ＪＲ宇部線の存在について触れておられました。

中核都市程度の都市では、かつて駅前が栄えて、寂れ、そして今又、駅に戻るという現象が見られるそうです。宇部線は街なかにあるので、その駅ごとに核をつくって、人が集まって宇部線を利用するということになれば、まちの復活につながる。駅がにぎわえば、それに路線バスや中山間地域のコミュニティバスを絡めていけば、非常に効率的な生活が営めると言われていました。

宇部線も年々利用者が減っており、このままでは、小野田線、宇部線という形で無くなってしまうことを考えると、このような考えに魅力は感じるのですが、それを総合計画に入れるとなると、多分に異論があるところと思われ、そこまでは議論は行っていません。

回答にならず、申し訳ありません。

（会　　長）　本当に難しいですね。市もこれをまとめるのには、非常に難しいと思います。本日は、ここまでにしておこうと思います。

それでは、３番目の「地域ブランド」に移りたいと思います。資料１にだいたい意見は出ているようにも思いますが、どなたか意見はありますか。

よそで宇部市をイメージするものがブランドだと思いますが、認知度調査では宇部セメントとなっていました。それがいけないとは思いませんが、ちょっとブランド力が低いといえば低いような気がします。

（委　　員）　各委員は彫刻について随分書かれています。私も宇部市の宝の一つは彫刻だと思うのですが、余りにもその辺りにあり過ぎて、そのすごさが市民には分かってもらえていないと思います。

例えば、美術大学や芸術大学に案内を出して、修学旅行や卒業旅行で、芸術関係の若い人たちがもっと来るようになる広告・活動をしたら、ずっと広がっていくのではないかと思います。

（委　　員）　資料１のＮに、地域ブランドとして「障害者が当たり前に暮らせる町、個性を活かせる町」と書いています。少々とっぴに聞こえるかも知れませんが、障害者関係で宇部市が知られてきているのは事実で、いろいろな資源もそろっています。また、山口県の障害者の雇用率は全国で１番です。ブランドになる条件はそろってきていると思います。

少子高齢化の中で、障害は決してひとごとではありません。年を取れば障害を持ちます。障害を持ったからできないのではなくて、障害があってもできることを活用するという視点に立つことだと思います。例えば、高齢者の知識と知的障

害者の身体力を組み合わせるコラボレーションは十分可能だと思います。

障害という一つの切り口で、宇部市がもう少し知られ、ブランド力を持つように、私自身も努力したいと思います。

それと、先ほどの話題（コンパクトシティの論点２）に戻るのですが、資料１のＮで、公共交通についてWin-Winの関係を築くことを提案しています。やはり、提供という一方的な関係ではどうしても困難だと思います。先ほど言われたように、公共機関ではなく民間でやれるような仕組みは十分できると思います。

東京都品川区中延商店街が実施しているのが、商店街に来るための足（車）を商店街が準備しましょうという取組です。退職者などの地元住民が有償ボランティアとしてその車の運転に当たり、ボランティアへの支払いはその商店街でしか使えないポイントで行うという形を取れば、商店街、ボランティア、高齢者のみんなにとっていい関係になります。

宇部市でも、例えば、厚南のエリアで、商店街が共同してバスの運用をする、バスの運転者にはポイントを与える、ポイントはその商店街でしか使えないという形を作れば、いい関係がつくれると思います。

ただし、今までのように１分１秒に厳密なバスの運行はできないので、タイムスケールをもう少し伸ばした、ゆったりとした時間で運用します。そうすれば、私はできると思います。

（会　　長）　ありがとうございます。今大変いい提案がありました。今は、こういう福祉への取組が十分ブランドになりうる社会環境だと思います。ぜひ、事務局は取り上げてもらいたいと思います。

「地域ブランド」について事務局から説明を受けていませんでしたが、このまま進めたいと思います。

それでは、関係がありますので、「常盤公園・彫刻」も一緒に取り上げたいと思います。

（委　　員）　彫刻については、これ以上増えてもどうなのかなと思っています。

ところで、先ほど工学部の学生が宇部市以外で就職するという話が出ていましたが、これに関連して考えさせられることがありました。

一昨日、フロンティア大学の新入生を、宇部興産や地域のいろいろな産業を観て回るツアーに連れて行きました。

私は宇部生まれの宇部育ちなのですが、宇部興産の中を見たことがありませんでした。昔では考えられないようなすばらしい製品をたくさん見せていただきました。興産道路も通らせていただき、すごい橋も渡りました。

そういうものを、宇部にいながらぜんぜん知りませんでした。もちろん学生は初めてだったので、すごく感動していましたし、一緒に行った教員も、宇部出身者のほか、他県から来た者もすごく感動していました。

そこに住む人たちがその地域にあるものを十分知らない、という現実があることが分かりました。

学校を対象に、もっとこういう企画をされたらと思います。本学では去年までは萩に行っていたのですが、学生も教員も、今年はこのコースにしてすごくよかったという感想でした。是非、こういうものを広めてもらいたいと思います。

学生については、先ほども出ていたように、やはりアルバイトの問題があります。学生からいいアルバイト先がないという相談をよく受けるのですが、看護学科は女子学生が多いものですから、夜遅くまでとなると私たち教員も心配です。健全なアルバイトをもっとあっせんしていただけると、もっと学生が住みやすくなると思います。

（会　　長）　ありがとうございました。学生アルバイトについてはなかなかややこしくて、簡単にあっせんすると、職業安定所からそんな権限は無いと言われてしまいます。しかし、真剣な問題なので、商工会議所としても、ぜひ考えてみたいと思います。

それから、今、高い評価をもらわれたところですが、宇部興産としてはどうですか。

（委　　員）　確かに、当社が自動車会社であれば、自動車を作っているということが分かりやすいのですが、科学とか機械とかセメントとか、いろいろなことをやっているので分かりにくいところがあります。例えば、携帯電話の中の部品や、その中にある電池の成分などを製造していますが、中を割ってみないと分かりません。

そこで、当社の製品をいろいろなところにお使いいただいていることから、ショープラザを作ることを企画しました。ショープラザを作って何より驚いたのは、社員が見学に来て、「そんなこともやっていたのですか」と言ったことです。

今までも、年間約5,000人～6,000人に見学に来ていただいており、その内、学生が約６、７割でしたが、このたび、物として見えるようにしたので、理解していただきやすくなったと思います。

リピーターもあります。東京の巣鴨高校が５年前に見学に来られたのですが、要望があって昨年再び見学に来られました。そのときには、より感動を与えられたのではないかと思っています。

いろいろな化学実験教室などもやっています。そこで育った優秀な学生の全員が当社に入社していただけるわけではないのですが、人を育てていけば、先で何かつながってくるのではないかと思っています。そういう意味では、このショープラザを作って良かったと思います。

このように、社会貢献活動の一環として、当社としても、かなり力を入れています。効果はすぐ出るわけではないのですが、今のような話をきくと、もっと力をいれてやろうという気になります。

それから、地域ブランドについては、自分たちが何とかしていこうという思い、思い込みではなく思い入れは非常に大事だと思いますが、客観性を持たせる必要があります。自分たちだけが「好きだ、好きだ」というだけではなく、外の人が認めなければいけません。

例えば、宇部といえば「うべかま」は東京でも売れており、そういうものに集

中的に取り組み、宇部というまちを発信することが必要だと思います。

また、彫刻は宇部市の名前が世界まで発信されているわけですから、少し時間がかかるかもしれませんが、宇部市民が自覚して外に発信できるようにする、そういう試みをここで取り上げたらよいと思います。

（委　　員）　宇部観光コンベンション協会としては、昨年からフロンティア大学に産業観光のＰＲに伺っていましたが、今年、新入生と教職員の懇親のツアーを行うにあたり、共通のコースと３つの体験コースを作り、バス３台に分かれて138人に利用いただきました。

共通コースは、宇部興産のショープラザ（アイプラザ）、宇部興産屋上、そして宇部興産大橋を渡ってトレーラー基地です。体験コースは、小野田のガラス工場、楠の赤間硯、それに石炭アクセサリーです。その後、常盤公園のレストハウスに全員集まって食事を取っていただきました。

大変好評だったようですので、ぜひ来年もよろしくお願いします。

産業観光については、山口県が全国から観光客を誘致するディスティネーションキャンペーンの一環として、観光客の誘致方法を検討する中で生まれました。

この地域は瀬戸内有数の工業地域なので、普段見ることのできない元気な工場を見学する観光を商品化したらというアドバイスがありました。最初は半信半疑でしたが、ちょうど宇部興産が本社の１階を大改装してショープラザを作られると聞き、宇部興産が一般のお客を社内に受け入れるということであれば、ほかの企業の協力も得られるのではないかと、一昨年スタートし、昨年から本格的なコースを設けました。

今年度は２年目で、5月25日から12月上旬まで、20コース42回を予定しています。すべて平日で、定員20人です。企業訪問の道中にエスコーターという、企業ＯＢ・郷土史家・ふるさとコンパニオンがコースに合わせて同伴するのが特徴です。

料金は6,700円と6,000円の２種類で、6,700円の場合は一般のレストランを使うのですが、6,000円の場合には、社員食堂や美祢市の社会復帰促進センターの食堂を使います。

パンフレットも作っています。皆様も遠慮なくお問い合わせください。

次に、常盤公園については、どのように集客するかということを、市も一番考えて、悩んでいるところかと思います。

常盤公園は、現在のところ、自然公園に動物園・遊園地を含めた総合公園と位置付けられています。全国的に遊園地の経営が、全国的にディズニーランド以外は良くない状況で、常盤公園は年間約40万人の利用者ですが、ペイするには現状の遊園地では難しいと思います。

したがって、常盤公園を今後どういう公園にしていくのか、都市公園だけにするのか、遊器具等も入れた総合公園としていくのか、市民の意見も聞く必要もあるでしょうが、早く方向性を決めないと対応は難しいと思います。

（会　　長）　いいものがあるけれど、徹底していないのが宇部市の現状のような気がします。

期限を付けて市全体で徹底して支援することが必要だと思います。

例えば、「うべかま」にしても、全部買いましょうという運動を集中してやれば、どんどん売れると思います。産業観光にしても、全国に先駆けてやっており、内容もすばらしいと思います。

そういうものを、どうやって１ランク上にブレイクスルーさせてやるかということを、このような審議会で真剣に考えて、ある期間、集中してお金も人もつぎ込んでやらないと、ブランドはなかなか生まれてこないような気がします。

産業観光については、私も中国から人を呼んできましたが、来た人は本当に感激していました。これから中国からも、何十万人も何百万人も来るようになると思います。今は先駆けてやっていますが、ものすごくいい観光になると思います。

彫刻を始めいいものがありますので、外の人に来てもらうということを今後の一つのテーマとして、そういったことをぜひ答申に入れてもらいたいと思います。

次に、常盤公園・彫刻については、論点１「常盤公園は、観光資源と市民の都市公園とのどちらの方向で整備していくべきか」についていろいろ意見が出ていますが、どなたか、こうするべきだという意見があればお願いします。

（委　　員）　常盤公園の彫刻については、先ほど言われたように、あの規模ではテーマパークはとても望めないと思います。

ほかの分科会の議事要旨を読んでいて、それよりは、市民の公園という意味合いから、遊器具をすべて取り払って、子供たちが遊べるアスレチックパークにしたほうがよいと思いました。そうすれば、親もついて来て人が集まると思います。

イベントで人を集めるというよりは、体を思いっきり動かせるような自然帯にしたほうがよいと思います。

彫刻については、今回審議会にかかわったので、１回ざっと見てみたところ、けっこうばらけていますね。医大の辺りからずっと歩いてみたのですが、あるのはあるのですが、ぽつりぽつりです。

私の思いは論点２のＮにも書いたように「水木しげるロード」のように彫刻を集めてずらりと並べ、医大の人も「おおっ」と見て歩けるようにすることです。やるなら徹底したほうがよいと思います。本当に散らばっていると思います。

（会　　長）　彫刻については、市でも特別なプロジェクトを作られたと聞いていましたが、もう立ち上がったのでしょうか。事務局いかがですか。

（事 務 局）　彫刻については、今のところ具体的な動きはないのですが、常盤公園については、総合公園から今後どのようにするか方向性を絞っていくために、市民の意見も踏まえて、今から検討していく組織を立ち上げようという動きはあります。

（委　　員）　宇部のいろいろな所にいろいろな彫刻がありますが、私たちには、なかなか全部回って見るようなゆとりはありません。よそから来た人も、時間的余裕があれば回れるのでしょうが、常盤公園に集中してあればそこで楽しまれると思います。

灯台下暗しだったのですが、昨年、婦人会で宇部興産のショープラザに行って、石炭のまちの歴史がここにあるのだということが分かりました。

「行ってこい。見てこい。やってこい。」というような状態で、常盤公園をおおいに活用してもらいたいと思います。私は、今言われたような子供たちの遊び場のほか、お年寄りも憩えるようなプレイパークを造ったらどうかと思います。

青年の家の辺りにプレイパークを造り、学生もボランティアで手伝いをして、実験もできる、講座もできるという状況になれば、子供たちも喜んで活動できるのではないかと思います。

かつて父親が沖の山炭鉱に勤めていたという人たちが釜山から来られたとき、炭鉱に行きたいと言われましたが、興産の沖には既に何もないので、しかたなく石炭記念館に連れて行きました。

そうしたら、小学校の低学年のときに終戦を迎えられたそうなのですが、写真を見てさえ、「私はこういう家に住んでいたのですよ。」と言われました。やはり、よそから来た人も、石炭のまちであったという思い出を持って来られます。

いろいろな面で、常盤公園をおおいに活用できるような状態にしてもらえば、観光地にも、市民の憩いの場にも、子供たちの遊びの場にもできると思います。

（委　　員）　彫刻の件ですが、私は８年前に山口芸術短期大学に社会人学生として２年間通ったのですが、その間に、彫刻の授業でも、そのほかの美術の授業でも、宇部市の彫刻展の話は出ませんでした。

そのときは、余り意識していなかったのですが、今考えると、ビエンナーレとか、世界で３番目の歴史とかいう話を聞くと、先ほど美術大学などにＰＲをするという話がありましたが、地元の教員にすらあまり意識されてないのは残念です。

（委　　員）　私は、先週、ボランティアのグループと一緒に、北海道の札幌市と旭川市に行ってきました。両市とも宇部と同じように彫刻のまちを標ぼうしており、宇部と同じように彫刻の清掃の市民グループがあります。そこと交流をしてきました。宇部といえば、下にも置かぬもてなしでした。

旭川には中原悌二郎美術館という日本を代表する美術館があり、札幌には、札幌芸術の森というすばらしい大きな森があります。

ただ、事情を聞くと宇部と同じです。やはり、彫刻で売り出すのがいかに難しいか。それを、どうやって市民に分かってもらい、市民がそれをエンジョイできるかということでは、まだまだ開発途上です。

しかし、この３つの都市が連合すると、全国をリードすることができるのではないでしょうか。宇部市単独では弱いのですが、旭川と札幌が一緒になれば、チームワークが大変面白いです。みんな歴史がない新しいまちで、彫刻をターゲットにしています。これは宇部が彫刻で生きてきた、いい証拠だと思います。

ただ、本当に、なかなか宇部市民に理解していただけない。札幌市民も旭川市民も同じです。

（委　　員）　常盤公園のことですが、分科会でもお話ししたのですが、私も、子育ての間ずっと、常盤公園の中に子供たちが自由に体を動かせるようなアスレチックがあればと思っていました。

うちは男の子が二人だったので体を動かしたいのですが、遊具はお金がかかるので、「幾つまでよ」と制限をかけてしまいます。それで、体を動かして遊べる所を探して、河原谷公園に大きな遊具があるというので連れて行ったり、きらら博のときに岩登りができる所ができたので、そこまで連れて行ったりしました。常盤公園のようなすてきな公園があるのに、遠くまで行かなければならないのは残念でした。

彫刻については、彫刻がまとまってあるような所があって、マップや標識などによって見て回れるようなルートがあるといいと思います。私は、常盤公園のそばに住んでいます。常盤公園にはかなり彫刻があって、先日、彫刻マップができたので、それを見ながら常盤公園の中を歩いたりします。

私は、常盤公園は市民にとっての都市公園としての整備が優先して進めばいいと思っているのですが、決して観光資源にならないものではなく、もっと県外からも来てもらえるものになるはずだと思います。

花もいろいろ咲いています。次々季節によって花が咲くので、今どの花が満開ですというような花便りも、市内だけでなく、せめて県内には知らせてもいいのではないかと思います。

結婚前、もう25、26年前のことですが、大阪に住んでいた頃、ＪＲの駅に白鳥が泳いでいる常盤公園のポスターがありました。そのときはもう、結婚すれば宇部に来ることが分かっていましたので、ＪＲの駅員さんに、要らなくなったらくださいと頼んでもらってきて、一時大阪の家に張っていました。

常盤公園が大好きです。もっともっとアピールすれば、すてきな公園だと分かってもらえると思います。

（委　　員）　彫刻については、宇部興産がいつも賞を出して、それを作者に渡しています。次に、同じお金で買い取って、それを宇部市に寄贈して、それから宇部市と交渉して、このたび、美祢市出身の大井さんの作品をショープラザの前に置きました。

そのとき、この彫刻は、常盤公園を背景にして置かなければいけないのか、興産本社のような人がたくさん来る所に置いたほうがよいのか、作者本人に尋ねたところ、人がたくさん来る所に置いてほしいと言われましたので、本人の承諾を得て置きました。

先ほど、中心市街地と郊外の分散の話が出ましたが、そのことを彫刻をキーにして考えれば、中心市街地では、常盤通りに、「何だあれは」と言われるぐらい、入賞した作品をみんな置けばいいと思います。

そして、常盤公園です。作者に聞いてみると、東京では、宇部の彫刻展は若手の登竜門と言われる彫刻展なので、借金しても出展するそうで、落ちたら悲惨なものだそうです。持って帰って、アパートに置くわけにもいかないし、処分にお金もかかります。宇部は彫刻が公害になるまちだと彫刻家は言うらしいです。

そこで、金一封を渡せば、彫刻を置いていかれるのではないでしょうか。そして、落選した作品を公園の後ろのほうに置いてもらうような工夫をすれば、あの公園は「何だこれは」といわれるくらい、彫刻でいっぱいになると思います。

そこで、このまちはこんなまちですよと紹介し、直行便が常盤公園を行き来するようになれば、「彫刻が常盤公園に来れば見られる」ということも仕組めるのではないでしょうか。

彫刻は完全なブランドになり得る客観性があると思います。自分たちだけがいいというだけではなくて、お客が来たときに、「うっ」と驚かれ、常に口コミで広がるような仕組みができたらと思います。

（委　　員）　今の話で思い出したのですが、以前、お世話になった人たちに礼状を出すときに、常盤公園と彫刻の絵葉書を使いました。それは、県庁１階の小さな書店で売っていましたが、それが最近無くなりまして、仕方なく県内の観光地の絵葉書を使っていたところ、それも無くなりまして、非常に残念に思っています。

ぜひ、常盤公園や彫刻の絵葉書を作っていただいて、礼状に限らず市民がいろいろなところで使えば、いい宣伝になるのではないでしょうか。今はそれがやりたくても出来ない状態です。

（委　　員）　彫刻のことなのですが、すばらしい彫刻があるのに、やはりＰＲ不足でしょうか、周りの人に聞いてみると、もうこれ以上お金をかけて彫刻はもういらないという人がけっこう多いです。そういう人は彫刻を見たことがないのではないでしょうか。もう少しＰＲをして、皆さんに分かりやすくしていただければいいと思います。

常盤公園については、市民の都市公園としていけばいいと思います。

娘が大阪に嫁いでいて、婿と帰省するたびに常盤公園に行きます。こんなにすばらしい公園があるのに、どうして宇部市はもっとアピールしないのだろうかと、大阪から来た者さえ言います。常盤公園といえば、カッタ君しか知らなかったのですが、来てみたらすばらしいので、もう少しＰＲして人に来てもらったら、と言っています。

（会　　長）　ありがとうございました。

今までの話をまとめると、彫刻については、肯定的に今後も力を入れてやるべきで、宣伝が足らないので宣伝方法をよく考えるべきいうことであったと思います。絵葉書を始め、いろいろな方法でほかの人にＰＲしてもらいたいと思います。

先ほどの札幌・旭川との連合も、あの地域と競合することは考えられませんので、ぜひ３都市で協定を結んで進められたらと思います。

アスレチックについては、あれだけ広い空間があるので、私もやるべきだと思っていました。ただ、遊園地は民間の企業と契約して運営しており、アスレチックができると、ほとんど無料なので、たちまち子供がそちらに流れて、遊園地の経営が成り立たなくなると思います。

あそこで遊園地を経営してもあまり採算が取れないと思います。契約もそろそろ切れると聞いていますので、契約が切れる際には、ぜひ検討すべきと思います。

私としても、工学部と宇部高専があるので、子供用の科学館を開催したいと工学部長や宇部高専校長に依頼し、今、総合政策部長が調整しているところだと思います。近々開催を開始できるのではないかと期待しています。

学生が子供たちに自然科学を指導し、科学が好きな子供を宇部市で育てるということを、常盤公園の中でやっていきたいと思います。

そして、これはまだ夢の段階なのですが、今クイズブームなので、常盤湖の湖畔に企業ごとにクイズ館を造って、湖畔を散策しながらいろいろな問題を解いてもらうということも考えています。

これができると、１周６kmありますので、１kmごとに１箇所あれば、歩いても楽しいし、ちょっと頭を使うことになると思います。

常盤公園は宇部市の宝ですので、これからいい方向に開発して、市民はもちろん、親戚や知人等が来ても楽しめる公園になるよう答申したいと思います。

それでは時間もあまり無くなってきましたので、事務局から「学生満足度」「協働」「市財政」についてポイントの説明をお願いします。

（事 務 局）　「協働」については、各分野共通の課題でもあり、宇部市としても協働のまちづくりを進めていくという基本的な方針がありますので、これについては、いただいた意見を事務局が参考意見として承らせていただいと思います。

「学生満足度」及び「市財政」に向けた提言のシステムについては、多少意見が分かれているところもあり、時間が無い中で恐縮ですが、ざっと意見交換をしていただきたいと思います。

（会　　長）　それでは、「学生満足度」について意見をお願いします。

（委　　員）　以前、宇部日報に「学生のまち」という学生・大学にとってはありがたい記事を書いていただいたのですか、最近、学生に対する市民の態度が冷たいような気がします。

例えば、夜に授業のためにライトをつけていると明るすぎるとか、学生がちょっと大きな声で騒ぐとうるさいとか言われます。学生は騒いでちょうどいいくらいだと私は思うのですが、そうも言えず、すぐに謝りに行きます。

学生も、無断駐車とか違法駐車とか、ごみの分別が不十分など、悪いところもあるのですが、最近、学生に対してもう少し愛情を持っていただけないかなという気がしています。今は学生にとって住みにくい環境かなという感じがしていますので、温かい気持ちを学生に向けてもらえるとありがたいと思います。

（会　　長）　次の「協働」については、仕組みをきちんとするとすごく協力をしてたくさん集まるが、仕組みがないと自分からやるということは余りない、というのが宇部市民だと思います。常盤公園にしても彫刻にしても盛り上がりに欠けるというの

は、そういうところにあると思います。

逆に言うと、市民に協力してもらう体制をどのように作っていくかということが、協働の一番難しいところというか、一番大切なところだと常に思っているのですが、なかなか仕掛けが難しいですね。

この５日に新川市祭りがありますが、天気がよければすごく人が集まると思います。これはある程度仕組みを作ってきたからで、市民も５月５日に中津瀬神社のところに行けばにぎわいがあることが分かってきたからだと思います。

協働をどのようにをどうやっていくかは、非常に大切なことだと思います。

「市の財政」については、藤田市長が７月18日をもって退任され、新市長の方針もありますから、今議論しても変わってくる可能性はありますが、審議会では方向は示すべきと思います。

では、時間も余りありませんので、全体的なことも含めて、意見をどうぞ。

（委　　員）　藤田市長はお辞めになるからか、最近、意外に率直にものを言われます。最近ある会合で言われたことをそのまま言います。「国からの指示を忠実に実行していれば予算の付いた時代が終わって、今、分権の社会が始まろうとしているが、指示待ちに慣れた市役所の中で、どう知恵を働かせて、少ない予算で運営していくかが一番の問題になっている。そうした中で、市民の知恵・アイディアを取り込み、それをサポートするのが、これからの行政のあり方だ。」

これは、16年の経験を踏まえた、市長の率直な協働に対する一つの考え方だと思います。

私もＮＰＯとかいろいろとやっていますが、「協働」「協働」とやると、必ず、気が付いてみると行政の下請けになっています。何のことはない、使われているということです。では、もう協働なんかやめるというのが、市民のグループの多くの意見なのです。

それではだめで、市長が言うように、知恵とアイディアを市民が出すということです。市民は非常にわがままですが、知恵とアイディアというのは生活者としての生の声ですから、それを行政がどう受け止めて、どう政策として活かしていくのかということが協働だと思います。それが現実的だと思います。

理想論的に、一緒にやりましょう、手をつないでやりましょうというのはもう終わっていると思います。

（事 務 局）　市としても、地方分権の時代になっていると思います。常々、市長からも、今のようなことは職員として言われています。どちらにしても、国からお金がくることはないので、お金がないときに、自分たちで考えてやらなければいけないと思ってやっています。

私は今ブランドに取り組んでいます。最近、市民劇がありましたが、自分たちがやりたいと言われましたので、市も全面的にサポートしました。市が誘導するのではなく、自分たちの夢をかなえるために市民がやられることで、違った展開が見えてきて、全国的に発信できるものになってくるということを、直に考えて

感じています。

市民の知恵を借りて、市がサポートするということは本当にいいことだと感じています。

（委　　員）　さっき言うタイミングを外したのですが、今の協働もそうですが、上から下へ示すのではなく、市民に理解していただくということを明確にして、まとめていくほうがいいと思っていますので、また、後の分科会でも検討したいと思います。

（会　　長）　ほかに意見はありませんか。

では、最後に、資料１の最終頁の「まちづくりの合言葉」ですが、この取扱いについて、事務局の考えはいかがですか。

（事 務 局）　このたび、意見と一緒に合言葉を出していただきましたが、その際に、この合言葉が基本構想にどのようにつながるのかということを具体的に説明しきれないところがありました。そこで、本日のところは、合言葉の議論は、とりあえず保留にしたいと思います。

今、具体的に合言葉を基本構想に入れていく案を考えているところです。合言葉については、次回、基本構想を具体的な形にして示して意見をいただく中で、改めて議論していただきたいと思います。

（会　　長）　本日はこの後、分科会も予定しておりますので、全体会議での議論はここで締めたいと思います。この後、分科会で引き続き検討をお願いします。

分科会では、取り組む戦略について、選択と集中の観点から、特に施策の優先度を考慮した絞込みも議論してください。

それでは、「その他」について、事務局から何かありますか。

(2)　その他

（事 務 局）　今年度の今後の審議予定を資料２に沿って説明します。

一番上に本日の審議会と分科会を表示しています。

次回、第６回の審議会については、5月28日（木）の午後に開催したいと考えています。会場は、総合福祉会館です。

この後の分科会で分野ごとの方向性をまとめる予定にしているので、次回の会議ではまず、各分科会での議論の状況や、それぞれの方向性について、各委員長から報告していただき、全体で意見交換をすることにしています。

また、本日議論した「まちづくりの方向性」を踏まえ、基本構想案から総論部分を抜き出して、事務局でまとめた案を検討していただきたいと考えています。

それに併せて、目標人口設定の是非についても検討していただく予定です。

会議については、改めて文書でお知らせしますが、あらかじめ予定していただきますようお願いします。

その次の第７回の審議会については、6月18日（木）の午後に開催する予定にしています。会場は、同じく総合福祉会館です。

第７回審議会では、基本構想案の全体を示し、その内容について審議していただきたいと考えています。

その当日に起草委員会を設置し、その後、６月から８月にかけて、２、３回程度会合を持って、基本構想を立案していただきます。

８月下旬に、第８回審議会を開催して、起草委員会が立案した基本構想案について意見交換をして、審議会の案とします。

９月下旬から10月にかけて、審議会の案に対して、市民から意見をいただくパブリックコメントを実施します。

10月下旬の第９回審議会で、市民からの意見も参考に最終案を作り、その決定を踏まえ、11月に審議会から市長に答申をいただく予定にしています。

また、資料右側にあるように、市の内部では、６月下旬頃から基本構想案に沿って、前期の実行計画の策定に同時並行的に取り組んでいく予定にしています。

最終的には、審議会の答申を基に、12月市議会に基本構想を提案し、議決を経て、今年度中に第四次総合計画を策定したいと考えています。以上です。

（会　　長）　委員の皆様から他に何かありませんでしょうか。

特になければ、本日の全体会議は終了とし、引き続き、分科会に移りたいと思います。

（事 務 局）　皆様、お疲れさまでした。

分科会につきましては、会場を２階の第１及び第２会議室に移動し、引き続き開催させていただきたいと思います。

会場につきましては、恐れ入りますが、当初案内した予定を変更させていただき、お手元の会場図のとおり、生活環境分科会及び産業振興分科会は第１会議室、健康福祉分科会及び教育文化分科会は第２会議室において、それぞれ開催しますので、各会場に移動をお願いします。

また、分科会においては、協議が終わり次第、順次解散とさせていただきたいと思いますので、よろしくお願いします。

それでは、いったん休憩として、15時45分から再開させていただきたいと思います。